

平成 30 年度 第 2 回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 30 年 11 月 15 日(木)午後 2 時 55 分から午後 4 時 25 分まで
会 場	葛塚コミュニティセンター 1 階 研修室AB
出席者	北区自治協議会福祉教育部会委員10名(欠席0名) 教育委員:山倉教育委員、市嶋教育委員 事務局:教育総務課長、学校支援課長補佐、生涯学習センター所長 豊栄地区公民館長、豊栄図書館長 北区教育支援センター所長 他4名 小中学校:豊栄南小学校長、早通中学校長 北区役所:地域総務課長補佐 傍聴者:0名
議 事	1 開会(司会 北区教育支援センター所長) 2 教育委員挨拶(山倉教育委員、市嶋教育委員) 3 事務局紹介 4 報告事項 平成 30 年度全国学力・学習状況調査 新潟市(北区)の結果について (学校支援課長補佐)
自治協委員	児童・生徒の回答で地域行事への参加が高いのは、コミュニティに力を入れ、地域と一体となり進めてきたことの成果と認識している。 5 意見交換 テーマ「スマホ依存とどう向き合うか」 趣旨説明(福祉教育部会副部長) 早通中学校及び豊栄南小学校の取組紹介(各学校長)
自治協委員	中学校では健康週間に取り組んでいるが、生徒はその時期だけ頑張る。中学 3 年生のメディア依存が心配である。 マナー講習会に保護者が参加しないことが課題である。保護者への働きかけは、小学校から取り組んだほうが良いと思う。
中学校長	中学 3 年生のスマホへの逃避が増加しています。 学校では、生徒が暇をもてあまして時間をゲーム等ではなく、教科の補習やネットを利用した調べ学習などの創造的な活動で埋めるようにしています。 小・中の新入生説明会では注意喚起を行っていますが、小学 4 年生以上では手遅れだと思います。
市嶋教育委員	依存への原因追究が必要です。ゲームは友達関係の保持に繋がり、キャラの育成などで長時間となり依存に繋がっていきます。 正しい使い方を親が教えられるよう支援出来たら良いと思います。
中学校長	中学で依存している生徒はまだ少なく、大部分は保護者の管理下にあります。 箕面市(大阪府)のように市単位で取り組むことが必要だと思います。
自治協委員	市教育委員会の中でこの問題が話題に上がったことはないか。

山倉 教育委員	ゲーム・携帯電話・スマートフォンなどへの指導が、学校の仕事になっているという報告がありました。 保護者や地域を巻き込んだ対応が必要だと思っています。
自治協委員 中学校長	家庭や地域へのアドバイスはなにか。 子どもたちは、所属と承認が得られなくなり、ゲームの中で認められると感じるようになっていきます。また、暇な時間をゲームに費やしています。そこで、暇な時間をなくすため、集まれる場所を提供し、勉強や食事に時間を使ってもらおう。つまり、地域での子どもの居場所づくりを進め、地域で子どもを育む取り組みが必要だと思います。
小学校長	最近では中学入学時にスマートフォンを買ってもらう子が増えています。きちんと管理している家庭が大部分ですが、中には父親がゲーム好きで、子どもに影響を与えるケースも有ります。 北区は地域の行事に参加する子が多いので、そういう場で働きかけることが親への支援に繋がると思います。
自治協委員	大学生は、暇ではないがスマホゲームやバイトにより夜遅くまで起きていて朝起きられない。自分で生活習慣をコントロールできていない。更に読書時間が少ないことは問題である。
中学校長	当校では読書に力を入れています。 学校からの働きかけで生徒の読書量が年々増加しています。
自治協委員	親が本を読んでいる姿を示すなど、読書に親しむ環境づくりが必要だと思う。
自治協委員	テレビ番組でも依存症を紹介していたが、脱却するのに8か月を要していた。
自治協委員	親にリスクを伝えるべきである。 最近の子どもたちは人間関係が希薄で、すぐきれたり、怒りっぽくなったりしている。我慢する心は20歳で完成する。 幼いころから入り込んだ依存は、自然には治らないので、早い段階から行政や学校からリスクを発信してほしい。
自治協委員	子どもたちは承認欲求が満たされていない。コミュニティではスマホ世代がいないため学校や親のような指導ができない。しかし、子ども食堂などでの居場所を提供することを考えていきたい。 意識調査で「人の役に立ちたいと思っている」との回答が90%を超えている。高齢者も含め意識が高い地域なので共有していきたい。
学校支援 課長補佐	市全体の問題として三つあげられると思います。 ①依存には、課金・昼夜逆転・暴力・きれるという問題 ②いじめ誹謗中傷は、見つけにくいという問題 ③画像投稿・ラインは、広域化するという問題 現状では、依存ではなく共存を進める必要があります。しかしその指導は学校教育から外れていますので、学校教育としては、危険性や依存症についての情報提供を行い、保護者は使用時間のコントロールを、また、地域では居場所づくりを進めていただくことが望ましいと考えます。

生涯学習 センター所長	公民館が実施している「家庭教育学級」の講座のなかでもスマホ関係は取り上げていますし、「子育て出前講座」として小・中学校入学説明会等の折に保護者向けの講演会を実施しています。PTAと教育委員の懇談の折にも、この問題を話題にさせていただければと思います。
自治協委員	親が子どもに与える影響は大きいと思う。親を巻き込んだ取り組みを学校で実施しているのか、またその効果の実感があるか知りたい。
小学校長	実感はまだありません。小学校側の危機感も薄いと思います。 これからは、職員の意識を高め、保護者への働きかけを行っていきたいと思っています。
中学校長	中学校と保護者との繋がりが薄いと感じていますので、地域から褒めてもらえる行事を行っていきたいと思います。
豊栄地区 公民館長	当館主催の「児童期家庭教育学級」で「知っておこうネット社会のこと」という講座を開催し、受講者にネットの危険性やネットに子守をまかせっきりにしないといった子どもに対する接し方などを学んでいただいています。これは、受講者数が限られているとはいえ、社会教育として意義ある事業だと思っています。ネットの危険性については、親が学ぶべきではありますが、既に家庭教育の範疇を超えており、ネット事業者からも危険性を周知していただきたいと思っています。
自治協委員	家庭の問題が大きい。親や祖父母が買い与えている。しかし、中学生でスマホを持っていなくてよかったと思っている子もいる。 親はロックなど、危険の防止策を講じる必要があると思うが、操作できない現実がある。
自治協委員	皆さんがこの問題に本気で取り組み、対応していく必要がある。対応の土台は家庭にあると思うが、学校やPTAに活躍していただきたい。なお、PTAへの支援を教育委員会にお願いしたい。
議 事	6 福祉教育部会長挨拶 7 閉会